

島根県でのTECH未来

今回は、出雲市立第三中学校の和田守 貴行(わだもり たかゆき)先生にお話を伺いました。

和田守先生は、長年TECH未来を使用して授業を実践してくださっており、先月の定期研修会にもご参加くださいました!そんな和田守先生にインタビューしてきました。

ー現在、教員何年目ですか?

22年目になります。

-TECH未来を使用して何年目ですか?

前任校にあたる益田市立鎌手中学校時代から使い始めて4年目になりますが、残念ながら異動した今年度は1年生しか担当していないので、実践ができないのが悩みです。

ー具体的にTECH未来を使ってこれまでにどのような授業を実践してきましたか?

これまで歯車を使った動力伝達の仕組みの学習は、扱いたくても適切な教材がなく解説するだけの授業になっていました。昔から乗り物や機械の動く仕組みが好きなのですが、教科書に出ている図だけでパッと理解できるタイプではなかったので、好きだけど苦手、という状態でした。苦手なものをどう教えたらいいのか試行錯誤する中でTECH未来を紹介してもらい、探し物が見つかった気がしました。組み立てと分解に道具がいらないので、考えたことをすぐに形にして確かめられるのがいいところだと思います。その反面、理解していなくてもなんとなく試

行錯誤を繰り返すことで正解に到達してしまう生徒もいるので、TECH未来を使う場面と使わない場面を設定するようにしています。一昨年からは問題解決の場面を『お年寄りでも安全にして取り組んでいますが、まる農業用運搬車のモデル』を試作することとして取り組んでいますが、まだまだ改善の余地があります。Dの計測・制御とも連動させていきたいと思っています。



- 今後TECH未来でどんなことをしてみたいですか?

これまでは1グループに1セットずつで取り組んできましたが、 平面は走れても、ちょっとした不整路だと駆動輪が浮いて空回 りすることがありました。例えばモーターが2つあればもっと違 う発想が出てクリアできたかもしれません。生徒一人に1セット ずつ行きわたるようにしたいです。また、有線でも無線でもいい ので、操作することができたら面白いですね。micro:bit対応 パーツの研究も進めたいと思います。

-最後に一言!

島根県では技術教員は1校に一人のことが多く、校内で相談する機会がほぼありません。TECH未来は教材としてだけでなく、実践例を共有したり相談したりできるところがすばらしいと思います。「分かるから面白い」と生徒に感じさせられるような授業を目指してがんばります。

編集後記

CとDの内容の統合的な問題解決もについても、楽しみにしております! これからも先生方のお役に立てますよう努めていきます。 和田守先生、ありがとうございました!